

「群雄割拠！戦国時代に突入した台湾の百貨店業界」

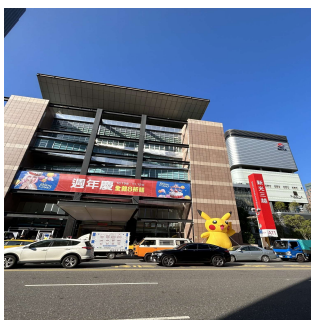
歐 元韻

＜台湾、秋の風物詩、週年慶セール＞

今月のハッピーメールが届く頃、台湾各地のデパートやショッピングモール、EC モール等では年に一度の週年慶※セールが催されている最中になります。日本の百貨店業界でも夏冬のセールやバーゲンを重要視していますが、台湾の週年慶セールにおける重要度は、日本のそれを上回るものがあります。近年は台湾各地で新しくデパートやショッピングモールなどが次々とオープンし、台湾を取り巻く百貨店、ショッピングモール業界はまさに群雄割拠、戦国時代の様相を呈しています。

ところで、冒頭にて台湾の週年慶セールの持つ意味合いは日本の比ではないと記しましたが、その理由として業界内では、わずか 2～3 週間の期間で年間売上のおよそ 3 割前後の売上を確保しなければならないとの不文律が存在しているからです。そのため、関係者のプレッシャーは相当なものがあるとの噂です。しかし、消費者側からすれば年に一度の高額商品購入のチャンスであり、デパート側が準備する週年慶セール用会員向け贈答品も、毎年消費者の間で楽しみとして話題に上ります。台湾の人たちにとっては、ショッピングという消費行為にレジャー的要素が加味された毎年恒例の伝統的行事でもあります。

台湾百貨店業界のリーディングカンパニー、新光三越グループ総本山、南西店では今年のセールは 10 月 5 日からスタートし、初日売り上げ目標額の 5 億元（日本円約 23 億円）を上回る 6 億元（日本円約 27 億円）を記録、グループ全体での週年慶セール実績は 206 億元（日本円約 955 億円）、南西店での週年慶セール実績は 20.5 億元（日本円約 95 億円）と大々的に報じられています。また、業界内のもう一方の雄である遠東 SOGO グループでは、核店舗である忠孝館（計 3 店舗）の週年慶セールが 11 月 11 日から始まります。ちなみに昨年度の台北三店舗の週年慶セール初日売り上げ目標額は 13 億元（日本円約 60 億円）、セール期間の目標金額は 118 億元（日本円約 547 億円）と報じられています。



【週年慶セールの様子】

＜なぜ熱い？台湾、年に一度の週年慶セール＞

台湾の週年慶セールがこれほどまでの盛り上がりを見せるのはなぜでしょうか。確かに高額商品が大幅に値下げされ消費意欲が刺激されるからという大前提はあるのですが、そもそも昔から週年慶セールで最も販売実績を誇ってきた商品は化粧品やコスメ類です。1 年間分の化粧品類をセール期間にまとめ買いする女性陣の存在こそが週年慶セールを支えていると言っても過言ではありません。また、高額商品が割引価格で購入できるということで約 200 万円（日本円約 927 万円）近くする超高級ゴルフ用バッグをいとも簡単に購入するような猛者が毎年現れるのも週年慶セールならではの現象です。この様に爆買いおよび高額買いを楽しむ人たちを中心に週年慶セールは催されています。

＜台湾のデパート業界はまさに戦国時代＞

台湾にあるデパートやショッピングモールはますます店舗数が増加しています。

今年の春には台中でオープンした「ららぽーと」を筆頭に、台北市の大直にある「NOKE 忠泰樂生活」、9 月には新北市の誠品裕隆城ショッピングモール、また遠東 SOGO 百貨店のホームグラウンド、台北市の忠孝地区商圈に新光三越ダイヤモンドタワー店が SOGO 百貨店復興館に隣接してオープンしています。そのような状況に加え、来年の 1 月ごろには遠東 SOGO ビッグドーム店が台北市民の憩いの場、国父記念館や若者たちを中心に人気のある台北市松山文創園區をロケーションにオープンする予定で、台北市の中心部、忠孝東路四段から五段（全長およそ 3 キロ弱）にかけての商圈は、今後、遠東 SOGO（計 4 店舗）、新光三越、明曜百貨、統一百貨、微風廣場などが西から東にかけて軒を並べることとなります。また、忠孝東路五段後方には、新光三越（計 4 店舗）、BELLAVITA 百貨、微風廣場、ATT、台北 101 とデパート、ショッピングモールが隣接する信義新天地商圈が控えており、販売業者にとってはさらに商売の厳しさが増す超激戦区となっています。

※週年慶：元はデパートの創立記念をお祝いする目的で始まり、現在は 9 月～12 月にかけて行われるデパートなどの年に 1 度の大セール

参考：1 台湾ドル= 日本円 4.636 円

（2023 年 10 月 18 日時点）